

上川口小学校

「継続と挑戦」

「笑顔と意欲に満ちた
児童の育成」

校長 東 淳一

◆はじめに

本年度は、5名の新入生を迎え、全校児童38名、教職員12名(学習支援員を含む)、7学級(特別支援学級2組を含む)編成で教育活動がスタートしました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小して行った入学式でしたが、新入生だけでなく、在校生も新たな学年に向けて、いい表情で式に臨んでいました。

しかし、新学期が始まって4日後には緊急事態宣言の発出にともない休校となっていました。ほぼ1カ月間の休校で、出ばなをくじかれた感じは否めませんが、連休明けには元気な子どもたちの声が帰ってきました。つくづく子どもたちあつての学校だという思いを強くしたことでした。子どもたちは、毎日マスクをつけての生活です。手

洗い、消毒を頻繁に行わなければなりません。対面での活動はもちろん、ペアやグループでの学習にも気を遣います。随分不自由な生活を強いられっていますが、子どもたちは友だちと一緒にいられることに嬉しさを感じているようです。

自粛生活も解かれ、人々の動きも活発になっていきます。私たちも正直、気持ちがか緩んではいけないでしょうか。しかし、新型コロナウイルス感染症が終息したわけではありません。国も「新しい生活様式」を示し、それに沿った行動を求めています。

安心、安全な生活の実現に向け、一人ひとりがこれまで同様、細心の注意を払いながら生活していきましょう。



◆Wii

「あなたの思いを旗に乗せて」

町では、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けて町全体や医療・福祉現場で頑張る人を応援する取組が行われています。本校も青い旗を、防災扉横のフェンスに掲げました。

6年生が絵を描き、3密を避けるために、休み時間に学年ごとに声をかけ、メッセージを書いてもらいました。

遠足も中止、運動会も延期と、みんなで力を合わせて取り組む行事ができません。思いましたが、やっと、思いを一つにした作品ができました。

全校の思いが伝わって、また以前のような日常が帰ってくることを願うばかりです。



◆学校教育目標

「『継続と挑戦』「笑顔と意欲に満ちた児童の育成」が学校教育目標です。

新学習指導要領の完全実施にともない、英語教育やプログラミングの学習が求められるようになりました。

また、今回の新型コロナウイルス感染症は、人々の生活様式を一変させました。テレワークによる在宅勤務が推奨されたり、学習の機会の保障のためのオンライン環境の整備が求められたりしました。今後、教育のIT化がさらに進むことでしょう。

しかし、「不易と流行」という言葉があるように、時代とともに変わらなければいけないことがあると同時に、変えてはいけないこともたくさんあります。新しいことに尻込みをすることなく挑戦するとともに、「読む」「書く」「計算」など、これまで大事にしてきたものも大切にしながら子どもたちの教育に携わっていきたいと考え目標を定めました。

◆研究主題・研究推進

研究主題は、「自分の考えや思いを豊かな表現で伝え、互いに高めあい行動できる

児童の育成」です。

本校の置かれている状況を見たとき、子どもたちは必ず複式での授業を経験することになります。そのときに戸惑わないためにも、学習リーダーを中心に、子どもたちが主体的に学習を進めることができるようにしておかなければなりません。複式授業は、教師にとっては学習準備などが大変ですが、児童にとつてマイナースとはとらえていません。互いに尊重し合いながら意見を出し合い、練り合う学習が展開できれば、「主体的・対話的で深い学び」の構築につながることに、本校児童の課題である表現力の弱さの克服にもつながるものと考えています。そのために、単式学級であっても日々、学習リーダーを活用しながら授業実践に努めています。



大方中学校
Respect others.
一人ひとりを大切に

校長 浜口 和彦

◆はじめに

4月に40名の1年生が入学し、2年生51名、3年生53名、合計144名でスタートしました。学校教育目標は「学びあい、つながり、未来を拓く」です。大方中学校に代々受け継がれている生徒会目標である「一人はみんなのために、みんなは一人のために」を大切に、生徒も教職員も学びあいがら、人と人とのつながり、地域とのつながりを大切に、生徒たちが主体的に活動するなかで、未来を切り拓き、社会で生き抜く力を、すべての生徒につけたいと考えています。

◆リスペクト・アゲーズ

今年度の生徒会のスローガンは「Respect others.」一人ひとりを大切に「〜」です。全校生徒一人ひとりに個性があり、生活背景も違います。得意なこと、苦手なこと、価値観もそれぞれ違います。そんな一人ひとりを認めあうこと、お互いを尊重しあうことで、誰もが楽しいと思える学校生活が実現できると思います。



新型コロナウイルス感染症が拡大するなかで、感染に苦しむ人やその家族、医療現場などで頑張っている人やその家族に対する人権侵害が起こっています。みんなそれぞれの立場で頑張っているのに、ウイルスと不安から誰かを攻撃してしまっています。そんな今こそ、

相手を「Respect (尊敬・尊敬)」し、感謝することが大切だと思います。生徒会の考えたスローガンを大切に、自分の生き方と重ねながら、一人ひとりの人権が大切にされる学校をめざします。

◆ウィープロジェクト

町が取り組んでいる「ウィープロジェクト」に大方中も参加するため、生徒会執行部が呼びかけ、各クラスで旗を作成しました。青い旗に一人ひとりの手形を押しながら、1年生は「虹」、2年生は「ハート」、3年生は「ウィー」の文字を描きました。この旗は、校門から見える校舎前に掲揚しています。これまで医療や福祉に関わっている人はもちろん、さまざまな仕事に関わっている人が、それぞれの役割を果たしながら感染拡大防止に取り組んできました。



した。さまざまな活動の自粛、マスク着用や手洗いなどの感染対策をしてきた努力もあって、今の生活が保たれています。もちろん、大中の生徒一人ひとりもその役割を果たしています。「ありがとう」「一緒に頑張ろう」という思いを大切に、日々を過ごしていきたいと思えます。

◆掃除が変わりました

5月18日(月)の終学活の時間に、生徒会執行部と美化部から各クラスに向き、「新しい大中をみんなで作っていきたい、それはまず掃除から」と、新しい掃除の仕方を提案しました。それ以降、教室、廊下、階段などは、ほうきを使わず、自分専用の雑巾(マイ雑巾)を使ってしっかりと拭き取る形になりました。話をせずに無言で、時間が余っても、汚れているところを自分で見つけて掃除をします。今では膝をついて、一生懸命廊下などを拭いている姿がたくさん見られるようになりました。

物事を「こなす」のではなく、目的意識を持ち、心を込めてより良いものに仕上げること、これは大人になって仕事をするうえでとても大切なことですが、そのことを掃除の時間に学んでいます。また、ほうきなどの共有物を使わず、自分の雑巾で掃除することは、感染予防対策にもなっています。

◆一人ひとりが支える学校

今年度になって、これまで以上に生徒の活動がよく見えるようになりました。生徒会執行部はもちろん、放送部、美化部、保健部などの専門部や、時間割や集配などの学級の係が責任を持って良く動いてくれています。部活動も、3年生を中心に活気のある練習ができています。部活動の終了時には、各部のキャプテンが交代で下校を呼びかける放送をします。部活動の帰りに元気な声であいさつをする生徒も増えました。